

黒トリュフ 人工生育成功

国内初「輸入頼らず国産を」

「黒いダイヤ」とも呼ばれる高級食材・黒トリュフの人工的な生育に、岐阜県森林研究所と国立森林総合研究所(茨城県)が国内で初めて成功した。黒トリュフは生育環境を整えるのが難しく、国内で流通する全てを輸入に頼っている。

岐阜県森林研究所など

黒トリュフは欧州や中国で一部の食用品種の栽培方法が確立されている。両研究所は中国から輸入される品種「アジアクロセイヨウシヨウロ」が国内に自生する点に着目。2016年に生育技術の開発を始めた。アジアクロセイヨウシヨウロの菌をコナラの苗木に感染させ、岐阜県内の試験地に植栽。自生する環境に

近づけるため、苗木に石灰をまき、土壌中の水素イオン濃度を高めるなど工夫をこらした。今年10月、地表に直径約2・5センチの黒いキノコが二つ発生。もともとの菌と遺伝情報が同じで、生育成功と分かった。

国内でのトリュフ需要は高まっており、財務省の貿易統計によると、輸入額は13年の約7億円から22年には約20億円と3倍に。岐阜県森林研究所の水谷和人主任専門研究員は「輸入に頼らない国産黒トリュフを作りたい」と意気込む。同研究所は今後、より短期間で安定した栽培方法の確立を目指す。

岐阜県森林研究所などが人工的な生育に成功した黒トリュフ。岐阜県内で(同研究所提供)



岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限:令和7年1月16日

この記事は中日新聞社の許可を得て使用しています。